

# 川内川子ども環境ネットワークの概要

川内川子ども環境ネットワークとは、「川内川を日本一の清流にしよう！」を合言葉に、幅広い層の方々と共に川の水質調査や水生生物調査、ゴミ調査等を進めている環境学習の取り組みです。国土交通省が全国で展開している「住民との協働による水質調査」の一環でもあります。単なる河川水質の情報収集調査というだけでなく、身近な川の汚れ具合や生物を知ることで、地元の河川への愛護意識、良好な水環境の大切さ等を啓発することを目標にしています。

平成15年度の開始以来、毎年500人以上が参加されており、参加者数・調査箇所数等あらゆる面で九州内の一級河川でもトップクラスの実績を重ねています。

国土交通省川内川河川事務所が平成15年に川内川流域の諸団体（学校・NPO等）の協力を得てスタートさせ、H22より防災講話等を行う防災教室も設置しました。

## 活動の根拠(何にも基づいて活動しているか)

- 平成17年3月 国土交通省河川環境課「新しい河川水質管理の指標」及び「住民協働による水質調査の手引き」
- 国土交通省川内川河川事務所 川内川子ども環境ネットワーク規約

## 活動の内容(何をしているのか)

小学校や住民団体等からの参加申し込みを受けて、川内川河川事務所職員が講話や現地指導を行います。コースは「環境教室」と「防災教室」の2つあり、どちらも無料で参加可能です。

### 環境教室

- 川内川の概要に関する講習
- 水の透視度や臭い等体感基準による状態調査
- パックテストを用いた簡易水質調査（PH・COD・NH4の3項目）
- 水質指標生物を採取する水生生物調査
- 水難事故防止講話

基本的にも上記全てを1セットとして実施。  
その他、申し込みがあればゴミ調査も実施。



### 防災教室

- 治水に関する河川整備や水害の歴史、防災知識に関する講習
- 河川工事現場や防災システム等の見学等
- 水難事故防止講話



## 活動の流れ(どういう形でやっているのか)

まず、参加を希望されている方から、川内川河川事務所調査課に申込用紙を送付して頂きます（FAX・メール）。小学校等の教育団体からの申し込みが多いのですが、成人だけでも申し込みができ、誰でも無料で参加できるようになっています。



川内川河川事務所のスタッフが水質調査・水生生物調査ができる場所を下見し、安全な調査課可能地点を選定します。その上で、調査実施日の日程調整を行います。



屋内で参加予定者に対し、水質調査や水生生物調査の仕方や川内川の環境状況の講習を行います。すでに仕方を踏まえている団体の方に対しては省略することもあります。



後日、調査地点に集合。約5人ずつの班に分かれて、気温、水温、天気、透視度の確認を行います。その後、試薬を用いた簡易水質調査を行います。



その後、実際に川に入って、水生生物調査を行います。指標生物等を採集し、その種類と数の確認を行います。指導のため、各班ごとに職員が1名付き添います。



調査結果がそろい、水質等級の判定ができれば、各班ごとに結果発表を行います。その後、水難事故防止の短い講話を行って解散します。調査結果は、後日、申込者のもとに送ります。



毎年12月頃、調査結果や研究成果の発表の機会及び調査に参加した団体間の交流の場として、全体発表会を開催します（参加は任意）



\* 一連の流れは、ご要望の応じて、一部変更可能です。

# 学習できる内容

## 標準的なコース

屋内での事前講習 (ワークポイント等により45分程度)	郷土の大河・川内川の規模（九州第2位の長さ・九州第5位の流域面積）
	川内川各所の写真を用いた、河川の上下流における地形の違い
	雨が多いなど、洪水が起こりやすいという川内川独特の流域特性
	川の危険な側面（洪水を繰り返してきた歴史や平成18年の大水害の被害を短く紹介）
	その後、展開された治水工事について（短く紹介）
	川内川には危険な側面もあるが、多くの恵みをもたらしてくれるかけがえのない側面もある点（生活用水・農業用水・工業用水・発電用水としての利用状況）
	川内川は約3500種の動植物、天然記念物も含む多様な生物のすみかであることを紹介し、その環境的価値が高い点
	その反面、環境や利活用を損なう水質悪化や度重なる不法投棄等の現状がある点
	流域住民や子ども達による河川清掃や水質調査・生き物調査が川内川流域でさかんに行われており、川内川をより良い川にするための活動が各地で取り組まれている点

	水質調査・水生生物調査の方法
--	----------------

川での調査 (1時間30分程度)	PH等4つの指標による水質調査。これにより、ある程度細かい測定結果を自らの手で確認できる。また、川がきれいかどうかは、単純に一つの目安で決まるものではなく、さまざまな点から見た総合的観点で考える必要があることに気づいてもらう。
	指標生物採集による生物調査。川の中には環境に応じてさまざまな生き物がくらしている点やそれらの生き物にふれる楽しさを学ぶ。
	生物同定作業。採集した生物を事前配布した指標生物表により、名前と匹数を確認・記録することで、観察の大切さを学ぶ。
	生物調査による水質判定。「きれいな水」や「とてもきたない水」等4つの区分のうち、どの区分の指標生物が一番多かったかで、川の水質を判定。試薬による水質調査のように数値化された結果ではないものの、長い間水の中にくらす指標生物を調べることで、長期的観点から見た水質傾向もわかる点を説明。
	水難事故防止講話。川辺に遊び行く際の注意点（事前に天気予報を見て急な増水に備える点や1人で川に近づかない点等）。水生生物調査が終了した後に実施。

このほかにも、河川に関係することでしたら、学習計画に応じて、説明内容を変更することは可能です。また、説明内容を一部省略することで、時間を短縮することもできますので、必要に応じてご相談ください。

また、防災教育に特化した内容をご希望の際は、川内川子ども環境ネットワーク「防災教室」でお申し込みください。

なお、授業の一部に導入可能な防災学習教材は、川内川河川事務所ホームページの「川内川水防災河川学習プログラム」専用ページで概要及びワークシート等様式を紹介しております。こちらもぜひご利用ください。

川内川子ども環境ネットワーク防災教室 URL

<http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/approach/kkn/network2.html>

川内川水防災河川学習プログラム URL

<http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/program/index.html>